

旧米高に通信制高校

三幸学園と連携協力協定

学校法人三幸学園との連携協力協定締結式は7月20日、市役所庁舎で開かれました。

本市は、県から取得予定の旧米山高校を学園に貸し出し、学園は、来年4月に開校する単位制・広域通信制の「飛鳥未来さずな高校(仮称)」の登米本校として利用します。

協定は、本市と学園が教育、まちづくりなどの分野で協力し、活力ある地域づくり、人材育成を目的としています。布施市長は「子どもたちが学ぶ手助けをできれば」と、学園の昼間一彦理事長は「登米市農業の特徴を生かした教育をしたい」とそれぞれ述べました。



設置する高校は普通科で、登米を本校に、札幌、東京、沖縄など、全国9カ所で同時開校します。

50年ぶりの新しい朝

夏期巡回ラジオ体操来市

平成28年度夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会は7月24日、諏訪公園で開かれ、市民約1300人が参加しました。

夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会は、1953年に始まり60年以上続いている、日本の夏の風物詩。毎年7月20日から8月31日まで、全国43会場で開催され、本市では約50年ぶりのこととなります。

八巻美智恵さん(中田町蓬田)は「子どもの頃、いつか自分のまちにこないかと思っていました。二度とない機会と思い参加しました」と幼少時代を思い出し、ラジオ体操を楽しんでいました。



当日は、時折霧雨が降るあいにくの天気でしたが、みんな元気よく心地よい汗を流しました。

初の社会人デビュー

東和中生が職場体験学習

東和中学校(吉野幸信校長)2年生の職業体験学習は8月3～5日の3日間、市内事業所の協力を得て開かれました。市役所で職場体験したのは、菅原建さんと西城希望さんの2人。3日は広報紙編集、4、5日は総務部総務課と迫総合支所で窓口受付などの仕事を体験しました。

2人は、職員からカメラの使い方などの説明を受け、早速市内へ取材に。体験後2人は「もっと、華やかな仕事かと思っていましたが、目に見えないところで苦労していることが分かりました。あいさつやコミュニケーションの重要性も感じました」と振り返りました。



ハットFMとホテルニューグランヴィアで職場体験している同級生を取材。お互いの仕事の大変さを話していました。

両市の絆と発展誓う

米国姉妹都市で記念式典

「姉妹都市提携10周年式典」は7月5日、本市と姉妹都市協定を締結している米国テキサス州サウスレイク市で開かれ、布施孝尚市長、沼倉利光議長など、表敬訪問団8人が出席し、両市の絆と発展を誓いました。

サウスレイク市とは、2004年に旧登米町が姉妹都市協定を締結。登米市誕生後の2006年に、両市の友好関係を確立するため、姉妹都市協定を再締結しました。その後、毎年両市の中・高校生の派遣・受け入れを実施しています。

東日本大震災の際には「登米市支援ウェブサイトの創設」や募金活動、本市のためのチャリティーコンサートを開催するなど、多大な支援をいただいています。

姉妹都市10周年記念式典では、布施市長がサウスレイク市民へ、震災復興支援の御礼と国を越えた友情に対する感謝を伝えるとともに、姉妹都市関係が末永く続くことを祈念しあいさつを述べました。

今回の表敬訪問では、本市の特産品輸出の可能性を調査。米国には、日本のコメ、しょうゆ、みそや酒などを輸出していますが、同市内のスーパーマーケットでは見かけませんでした。同市規模のまちでは、日本の食品などの需要は、それほど高くありませんでした。

日本の商品を米国で売るには、流通コストが価格に大きく上乗せされること、流通ルートを確立するには、かなりの費用と労力が必要。短期間でできるものではないということが、関係者の意見から分かりました。

これらのことから、特産品輸出には高いハードルがあることを認識。今後は、国の輸出施策などの動向を見ながら、可能性を検討していく必要があると考えています。



長年、両市の橋渡し役として協力いただいている、キクコ・エクトロムさんに、本市から感謝状を贈りました。



10周年記念式典を前に、米国は独立記念を迎えました。サウスレイク市庁舎前には、多くの市民が集まりました。



記念式典では、本市産品をPR。日本酒の澤乃泉を振る舞い、好評を得ました。

仲間と共に汗を流す

身障者スポーツ大会開く

第12回登米市身体障害者スポーツ大会は7月15日、迫体育館で開催され、身体障がい者やその家族が参加し、心地よい汗を流しました。

大会は、8地域に分かれて競い、バドミントンのラケットでボールを運ぶ「ビッグスプーンリレー」や尻で風船を割る「ケツ圧測定」、フックの釣り針を付けた釣り竿で紙製の魚を引っかけて釣り上げリレーする「つりっこ」など、ユニークな9種目を実施。

参加した聴覚障がい者の小林隆一さん(中田町浅水新田)は「運動をする良い機会。仲間と一緒に体を動かせて楽しい」と手話で話してくれました。



参加者たちは、和気あいあいとした雰囲気の中、体を動かす喜びを感じていました。